

施工マニュアル【根太・合板捨て張り工法編】 重要

1) 保管・開梱

- 無垢フローリングは輸送中・保管中にも含水率が変化しますので事前に現場の湿度に馴染ませる必要があります。従って、無垢フローリングが現場に到着したら、結束は解かず開梱し段ボールから取り出して周囲の環境になじませて下さい。約 1 週間が理想ですが少なくとも 3~4 日間をお願いします。
- パイン材のフローリングは、馴染ませると“サネ”が入り憎くなる場合がございますので、開梱後に即施工して下さい。保管は水がかかり易い場所・湿気の高い場所・直射日光の当たる場所を避け、横に水平に置いて下さい。

2) 床下換気口

- 床下換気は、建築基準法で外壁の床下部に壁長5m 以下毎に、300 cm³以上の換気口設置が義務づけられています。湿気がこもらない環境にするのが大事です。若し、湿気が高いようであれば根太と捨て張り合板の間に 0.1mm 以上の防水シート(ポリエチレン防湿フィルム)を貼り、湿気を防いで下さい。

3) 下地材

- 下地に使用する大引き・根太・捨て張り合板には、含水率 15%以下の乾燥した材料をご使用下さい。
注意: 捨て張りに MDF やパーティクルボードは絶対に使用しないでください。
- 大引きは 90mm 角以上のものを 909 ピッチで、また、根太は 45mm 角以上のものを 303 ピッチで水平レベルに施工して下さい。(大引き・根太は必ず人乾材を使用。)
乾燥した12mm 以上の耐水性合板を捨て張りし(合板と合板の隙間を 3 ミリほど設けて下さい)、段差のない状態を整えて下さい。段差がありますと「床鳴り」の原因となる場合がございます。また床下に湿気が多い場合や新築 RC 構造の場合は 0.1 mm 以上の防湿シートを根太と捨て貼りの間に敷きこんでください。

4) 仮並べ

- 無垢フローリングは、全て色柄が異なります。施工前に一度仮並べをして、色柄を調整してから張って下さい。

5) 釘と接着剤 ★必ず接着剤と釘を併用して下さい。

- 釘 : フロアー用のスクリー釘、フロアステーブル(38 mm以上) 標準ピッチ300mmで根太に固定して下さい。
- 接着剤 : 1液型ウレタン系接着剤

※化学反応によって固化するタイプで、硬化後の収縮が無く、接着剤が要因となる床鳴りを防止します。)

弊社推奨品 ⇒ **コニシ KU928C-X** ※床暖房フローリングにも対応しております。

水性エマルジョン系接着剤・木工用白ボンドは絶対にご使用にならないで下さい。(接着剤に含まれる水分が蒸発して硬化するタイプで、水分を無垢フローリングが吸収する為、“暴れ・床鳴り”の原因となります。)

<接着剤の塗布について>

□ 非床暖房 幅90mm迄のフローリング → 3列塗布

フローリングの裏側、長手方向オザネ側、メザネ側、その中間に3列、均一に塗布をしてください。

※冬期間暖房を使用し室内が乾燥する地域では、接着剤が少ないと痩せが起りやすいため、全面塗布をお勧めします。

□ 非床暖房 幅広(120mm以上)すべてのフローリング → 全面塗布

床施工面の合板の上に接着剤を櫛ゴテで均一に延し、フローリングの裏側に接着剤が全面当たるよう張り込みを開始してください。

□ 床暖・低温間接式床暖房すべてのフローリング → 全面塗布

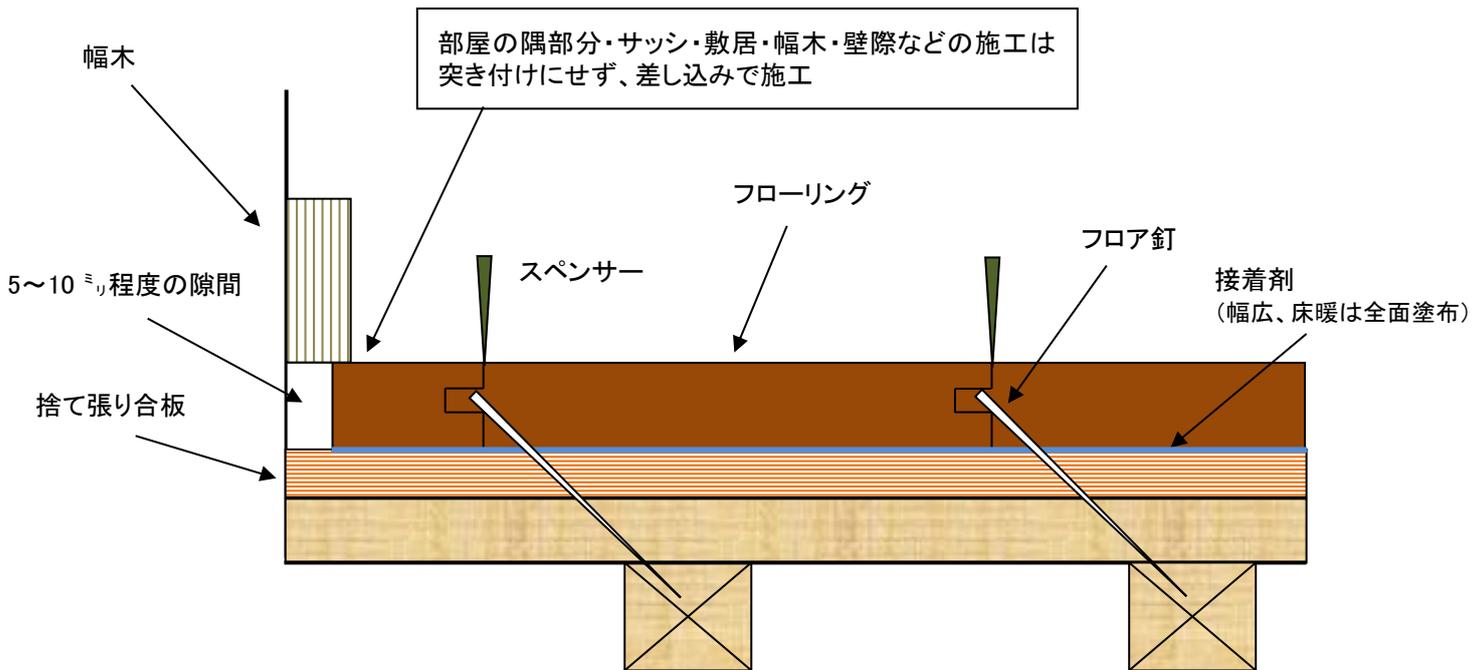
床施工面の合板の上に接着剤を櫛ゴテで均一に延し、フローリングの裏側に接着剤が全面当たるよう張り込みを開始してください。

- 施工時に、靴の裏に付く接着剤、施工者様の手についた接着剤には充分ご注意ください。付着した接着剤を剥がし、補修をするには高度な技術が必要になります。又接着剤の種類によっては補修が不可能な場合もありますのでお気を付け下さい。また絶対にサネの中に接着剤が入らないよう注意願います。

6) 壁とフローリングのスペース

- 施工環境にもよりますが、特に湿度の高い地域・季節での施工の際には、フローリングのサネは強く叩きこまず、市販のスペンサーを使い、名刺1~2枚程度の隙間(0.2~0.3mm)を設けて施工して下さい。
- 床暖房・低温間接式床暖房は床暖運転開始後の痩せを想定したサネの差し込みを行ってください。
- 壁・柱には密着させずに、必ず 5~10mm ほどのスペースを設け、そのスペースは幅木で隠して下さい。このスペースでフローリングの膨らみの逃げを作ります。

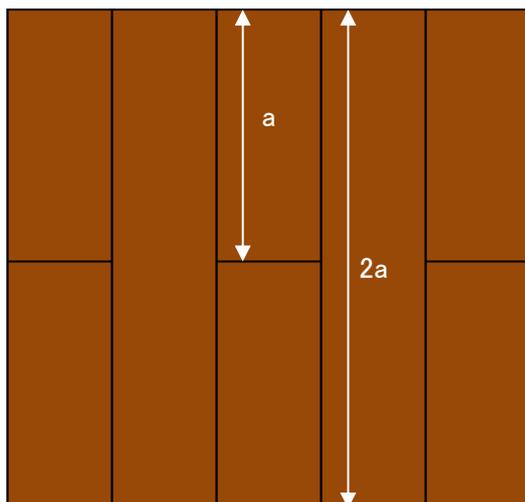
施工断面イメージ図



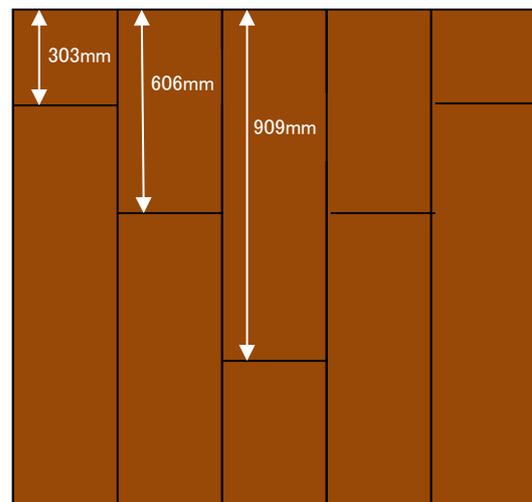
定尺施工イメージ図

以下二つのスタイルは一般的な張り方ですが、パターン化しない、よりオシャレな乱尺風の張り方もございます。張り方につきましては、必ずお施主様とお打ち合わせください。

千鳥スタイル



一尺飛びスタイル



※乱尺商品は短辺の目地が隣の列となるべく近寄らないよう配慮し仮並べ後、施工を行ってください。